

県内企業の情報化事例

トッププラン有限会社内 ゴーゴー長崎事務局

長崎県長崎市鳴見台1丁目5-8 TEL 095-850-5824

E-mail topplan@orange.ocn.ne.jp URL <http://www3.ocn.ne.jp/~kyoudou/index.html>

中小企業のバーチャルファクトリー（仮想工場）への取り組み

インターネットを使った事業展開を行いたい、と思っている企業は多いでしょう。

「ゴーゴー長崎共同カンパニー・ネット」（以下「ゴーゴー長崎」）は、その考えを実行している企業集団です。在来の共同事業をインターネットで広告・受注するというのではなく、インターネットを軸に共同受注をしていこうという構想で誕生しました。

「ゴーゴー長崎」はトッププラン有限会社（長崎市）の篠原義弘社長がプランを作りました。その目的は、営業範囲の拡大にあります。

すなわち、これまで単独では技術的問題で受注できなかった仕事を共同グループ化により、組織的に受注していくことができる。また、インターネットを軸にすることで、共同カンパニー参加企業間の地理的距離をなくし、顧客からは一つの製作工場とし

て見てもらおうという考え方です。

篠原社長は、以前から業務のコンピューター化に取り組み、インターネットも導入していました。営業活動にはノートパソコンを持ち歩いて活用されています。個人的用途にもホームページを作成するほか、過去にも、自社のホームページを作ったことがありました。しかし、ホームページを訪れる人も少なく、顧客にも会社にもメリットが少ないため、自然消滅してしまいました。

篠原社長は毎年新しいことに挑戦していますが、平成12年は、共同企業体としてのホームページを作ろうと仲間呼びかけて「ゴーゴー長崎」の開設に取りかかりました。

参加企業は、当初3社に呼びかけスタート時には、6社でのホームページを開設しました。8月現在では、10社が登録されています。

二週間に一回の打ち合わせ会議を行い「ゴーゴー長崎」運営をしています。今後は、インターネットでの各企業個別の営業活動も推進して行く予定です。

ホームページのスタートは平成12年4月7日でしたが、篠原社長が参考書を購入して自分で作成し、一週間で立ち上げたそうです。当初は、週2回のペースで改良に改良を重ねるなど、自社製作のメリットを大いに生かしたホームページ作りをしています。

名刺も、カラープリンターを使い自分で作成していますが、各参加企業には、サブ名刺と呼んでいる、ホームページアドレスと参加企業名を記した「ゴーゴー長崎」の名刺を配布し、通常の名刺とともに使用するなど、各社の営業活動の中でも「ゴーゴー長崎」の活



ゴーゴー長崎についての解説ページ
<http://www3.ocn.ne.jp/~kyoudou/kyoudou.html>

第2回

動を広めています。

「ゴーゴー長崎」のホームページには、直接の受注には結びつきませんが、少しでも多くの関係者に見ていただくために、「リンク集」や「ゴルフなどの趣味のコーナー」もあります。

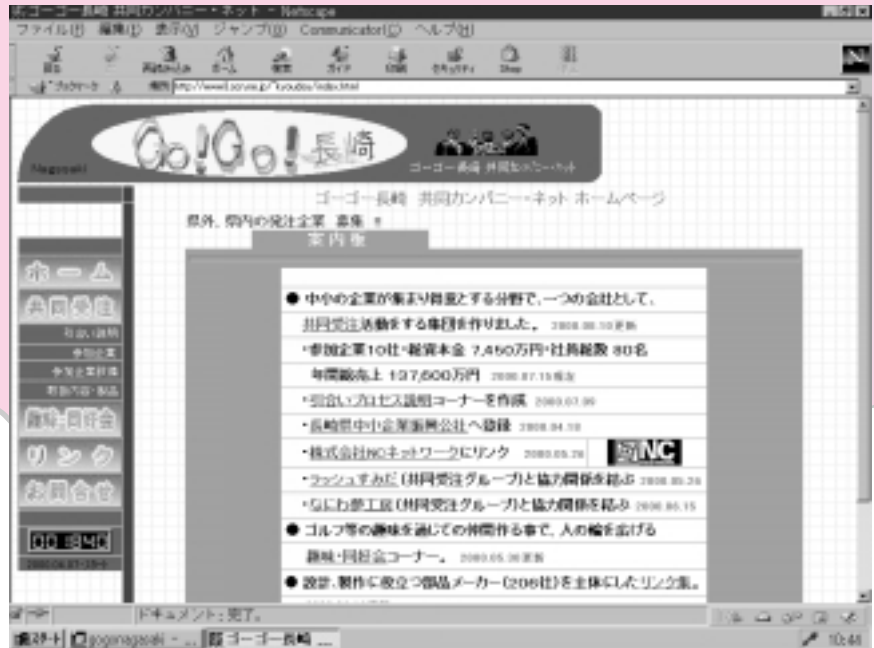
「リンク集」は、もともと自分で使うために、「製造業向けの商報（カタログ）の最新版として各社のホームページを利用できないか」ということで作ったというだけあって、機材や部品関連の企業のホームページが二百数十社掲載されており、評判も上々です。

掲示板の作成など、ホームページに追加・改良すべき点は多いということですが、「ゴーゴー長崎」では、今後も、ホームページにやり取りされた情報を元に事業を展開してゆく予定です。



リンク集

<http://www3.ocn.ne.jp/~kyoudou/link.html>
製造業向けの資材・部品・機材関連リンク集



Go / Go / 長崎 トップページ

<http://www3.ocn.ne.jp/~kyoudou/index.html>
シンプルでホームページの内容が分かるデザイン

最後に「ゴーゴー長崎」のホームページから、活動理念を紹介しましょう。

発注企業様へ

1社では限られた範囲の仕事しかできませんが、多数の企業が集まることで大企業に負けない仕事を処理することが出来ます。

下記のような組織構成をすることで、発注企業に対して技術・価格納期・品質を良好な状況で提供することが出来ます。

設計・機械加工・製缶加工・塗装・組立・据付と一貫した事が出来ます。

それと個々の内容(例えば、機械加工のみ)でも可能です。

受注企業様へ

- ・ホームページからの情報をもとに一つの会社として受注活動をして行く。
- ・参加企業は各々の得意とする分野で受注から製作、納品まで一丸となって協力して行く。
- ・お互いの技術を高めていくために情報を共有して行く。
- ・お客様の満足して頂ける製品を一致協力して作り上げて行く。
- ・参加企業同士で仕事のやり取りを行い、企業同士の助け合いを行う。

(情報化相談員 水田 聡)